

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10) 平成27年度:54.

人工透析をしている患者の服薬管理に対する認識～内服薬を休薬・減量する理由と背景～

増田 彩, 藤野 祥恵

人工透析をしている患者の服薬管理に対する認識 ～内服薬を休薬・減量する理由と背景～

旭川医科大学病院 9階東ナースステーション

○増田 彩 藤野祥恵

【目的】

人工透析を受けている患者が内服薬の種類・薬効・用法・用量の理解があるにも関わらず、内服薬を休薬・減量をしてしまう理由と背景を明らかにする。

【方法】

人工透析を実施しており、精神疾患の既往がない。また、薬効・用法・用量を述べることができ、入院時に薬の残数が合っていない患者2名。

20分間インタビューを実施し、これまでの治療への取り組みや服薬に対する思いを抽出、類似性のあるものでカテゴリー化した。本研究は当院の倫理委員会の承認を得た。

【結果】

A氏（60代男性）は＜過去の行動への後悔＞＜合併症の進行への不安＞＜再発予防に向けた自己管理意欲＞＜薬に対する不安＞＜検査値を見

て薬を休薬・減量している＞のカテゴリーが抽出された。B氏（50代女性）は＜自己の食事と検査値の関係を経験的に把握している＞＜透析をしているという理由で食事制限や内服薬の位置づけが低い＞＜治療と日常生活上の価値観との折り合いを考えている＞＜検査値を見て薬を休薬・減量している＞のカテゴリーが抽出された。

【考察】

1. 患者は自己管理意欲が高く知識があるがゆえに、薬の副作用や検査値が体にも与える影響を危惧していた。
2. 長年の透析経験や知識が過信を生み、自己判断に繋がっていた。
3. 結果的に透析を行っているから良いという思いがあり、内服薬の位置づけが低い。
4. 自分なりの生活を送っていきたいといった現在のQOLやライフスタイルを重視している。